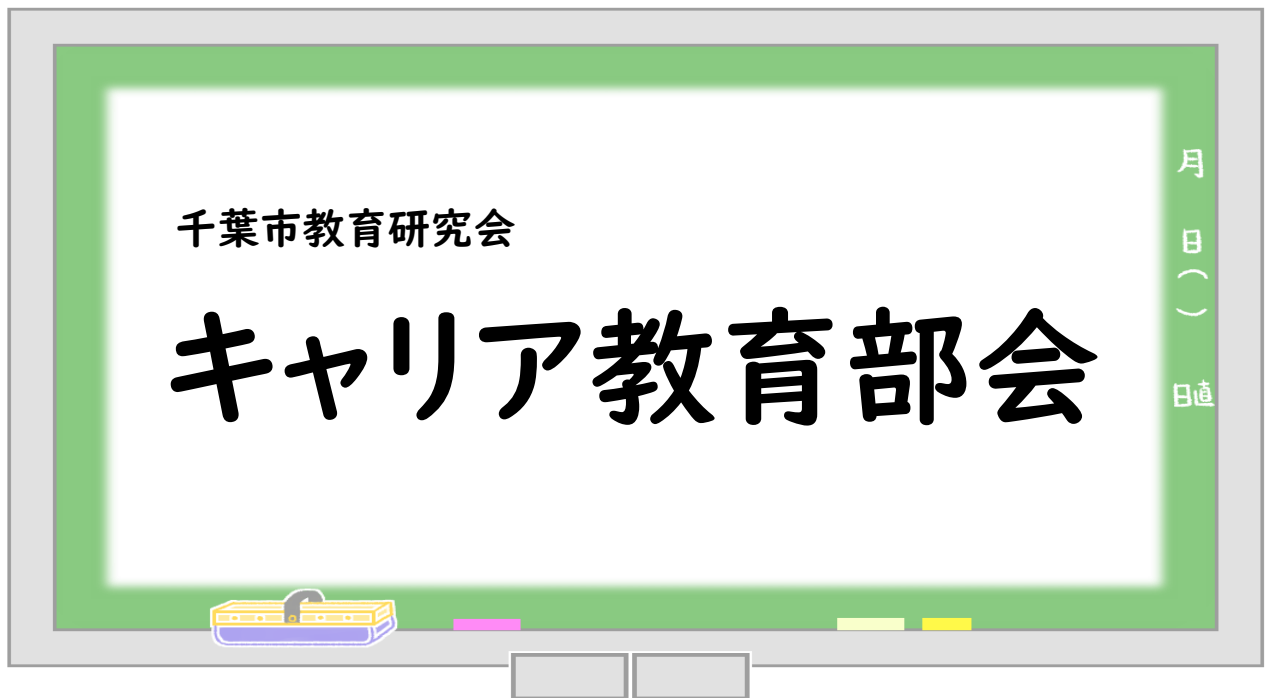




研究主題

未来を拓く力を育むキャリア教育のあり方

主な活動

教育センターの夏季研修において、市内の先生方にこれまでの実践を広め、千葉市全体のキャリア教育の充実を図っています。

小・中学校で授業研究を行い、日々の授業でキャリア教育をどのようにとりあげていくか、検討を重ねています。

R5 授業実践①（小学校 5年）

- 1.授業の実際 授業校 千葉市立おゆみ野南小学校
- (1) 主題名 本当の自由
- (2) 教材名 「うばわれた自由」（日本文教出版）
- (3) 本時のねらい
- ・自分の自由も相手の自由も尊重し、調和のとれた自由を大切にしようとする態度を養う。 【道德の視点】
 - ・集団生活において、周囲の人のことを考えて振る舞ったり、自らの言動を律したりすることが大切だと分かる。 【キャリア教育の視点】
- (4) 本時の展開

過程	学習活動と内容	教師の支援（○） 評価（◆）
導入	1 本時のキャリアの力について知る。	○4つの力を示した掲示物とキャリアマークを活用し、本時のねらいを掴んで学習に臨むことができるようにする。
展開	2 自由のイメージのイラストを見て、自由に対する考えを共有する。	○イラストを基に考えていくことで、自由の価値観を揃えることができるようにする。
	3 範読を聞き、ジェラル王子の気持ちについて考える。 したいことをしたいようにするジェラル王子の気持ちがわかる。 【賛成】 ・好きなことができないと、つまらない。 【反対】 ・何をしてもいいわけではない。	○物語の前半の部分だけのプリントを配布し、ジェラル王子の自由に共感できるか考えさせる。 ○身勝手はよくないと分かりつつも自由を楽しみたいと思っている気持ちに寄り添う側と身勝手はよくないと考える側に分かれて意見を出し合うことで、ジェラル王子の行為の基になった心を探ることができるようにする。
	4 本当の自由とは何か考える。 ◎いい自由と悪い自由の境界線（違い）はなんだろう。	○本当の自由とは何か探るための問い返しを多く用意し、本時の主題に迫れるようにする。
終末	5 本時を振り返る。	○①これまでの考え、②今日の学び、③これからの生き方の流れで振り返ることで、将来への展望を書けるようにする。 ◆自分の自由も、相手の自由も尊重し、調和のとれた自由を大切にしようとしている。 （道德的実践意欲と態度）（発言、ノート） ◆集団生活において、周囲の人のことを考えて振る舞ったり、自らの言動を律したりすることが大切だと理解している。 （人間関係・社会形成能力）（発言・ノート）

2.成果と課題

- イラストを用いた導入により、子どもたちのいろいろな視点からの「自由」に迫ることができていた。
- 普段の積み重ねにより話す習慣がついており、自分の意見を付度なく発言し合うことができていた。
- 賛成か反対かの二択であったが、中間の立場を用いていれば、さらに議論に深まりがでた。
- 振り返りの時間がもっとあれば、さらにキャリア教育の視点での変容が見られたのではないかな。

～授業のようす～



R5 授業実践②（中学校 2年）

1.授業の実際 授業校 千葉市立稲毛中学校

（1）単元名 「ひな社長の挑戦」

アントレプレナーシップ教育の実践（職業や自己の将来に関する課題）

（2）本時の目標

- ・起業模擬体験を通して、自分の職業観や勤労観を広げ、社会参画の考えをもととする。

【主体的に学習に取り組む態度】 ☆自己理解・自己管理能力

- ・起業模擬体験を通して、他者と自分の考えを交流しながらアントレプレナーシップを発揮する。

【思考・判断・表現】 ☆人間関係形成・社会形成能力

（3）本時の展開

本時は2時間展開の後半部分にあたる。前時にはシミュレーション教材（ひな社長の挑戦）で起業の流れを模擬体験し、事業内容を検討している。

過程	学習活動と内容	教師の支援（○） 評価（◆）
導入	1 1時間目の内容を確認する。	○ストーリーの舞台設定や登場人物、事業内容を考えるに至った経緯を確認する。
展開	2 事業内容を検討し、グループで発表準備を行う。 ・4人で発表する項目の役割分担をする。 ・2分間でリハーサルを行う。	○班の4人でどの項目を発表するか役割分担をさせ、全員が携われるようにする。 ○完成した事業計画書の写真をテレビに表示することで、クラスで共有できるようにする。
	3 グループ発表をする。 ・他グループの発表を聞き、自分のグループの発表内容と比較する。 ・授業者からフィードバックを受ける。 ・グループ発表を自己評価する。	○授業者からのフィードバックの観点 (1)虹が崎市の三大問題のどれを解決しようとしているのか。 (2)アイディアの独創性や事業の決定理由の根拠に関する他グループとの比較
終末	4 まとめ ・シミュレーション教材のアニメを視聴し、「ひな社長」が決定した企業やその理念、ツアーを考えるために、聞き込みに行くことを知る。 ・授業者の話聞く。 ・キャリア学習ふり返しシートに学習記録をまとめる。 ・本単元の感想を発表する。	○授業者の話の観点 ・「仕事」「職業」という言葉は聞いた事があったかもしれないが、「起業」「事業」も職業選択の一つであることを知ってほしい。 ・会社に勤めたとしても、そこでは「事業」を行なっていて、それは誰かのためのものだったり、社会の抱える問題を解決するためのものだったりする、という視点をもって（今後の）職業講話を受けてほしい。 ◆起業模擬体験を通して職業観や勤労観を広げ、社会参画の考えをもととしている。 (机間巡視、ふり返しシート)

2.成果と課題

○総合的な学習の時間の教師の役割は「しかけ」をつくることで、今回の「ひな社長の挑戦」は起業や事業の意味を知らながら考えることができるものだったので、よいしかけとなっていた。

●もう少し事業提案に遊びをもたす言葉かけをするなど、生徒がさらにアントレプレナーシップを発揮できる場面があるとよかった。

～授業のようす～

ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアムの方々にご協力いただきました。



R6 授業実践①（小学校 5年）

1 授業の実際 授業校 千葉市立本町小学校

(1) 題材名 めざせ！買物名人！

(2) 本時の目標 ・売買契約に関する注意点を知り、多様な情報から自分で考え、判断しようとする
ことができる。 (思・判・表) (自己理解・自己管理能力)

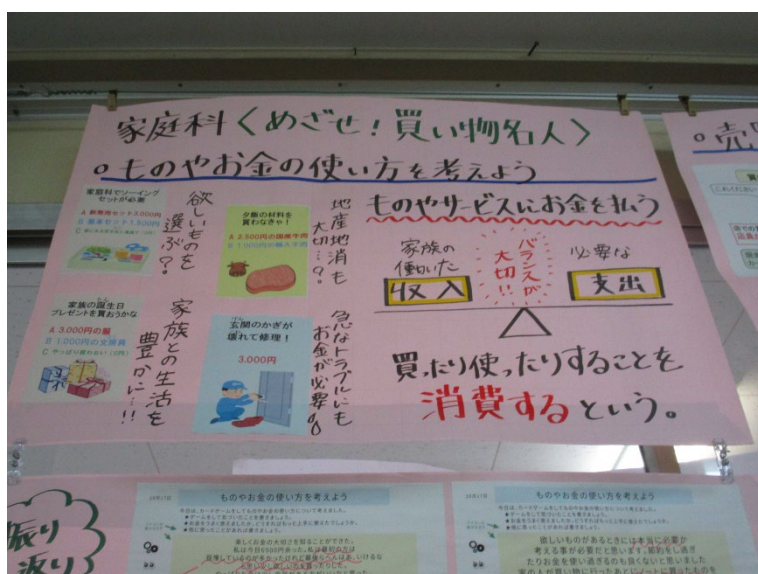
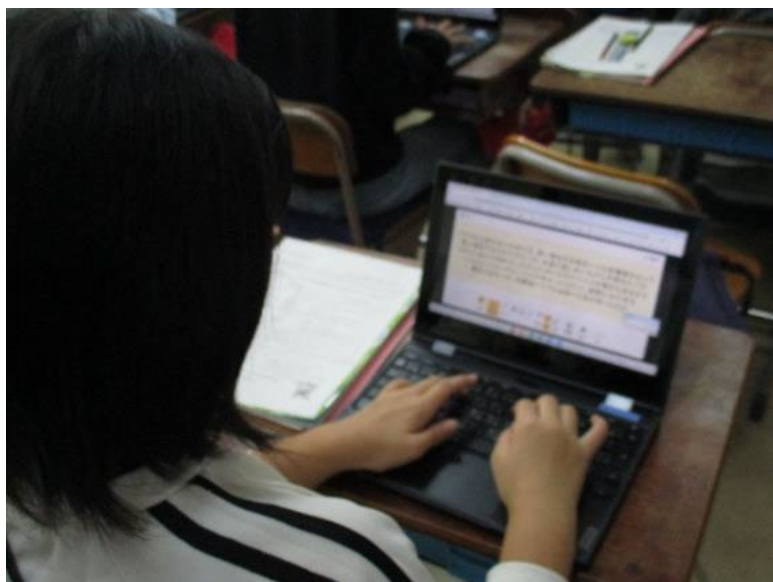
(3) 本時の展開 (4/9時間) T1：学級担任 T2：消費生活センター講師

学習活動	教師の指導 (T1○T2◎) と評価 (◆)
1 前時の活動を振り返り、から、日常で行っている買物が売買契約であることを確認する。	T1○買物の際のどのような場面が「契約」であったのかを確認し、契約にも種類があったことなど学んだことを振り返る。
2 千葉市で1年間に相談されている消費者トラブルの件数を知る。	T1○消費者としてトラブルに合わないためにはどうしたらよいのか問い、学習問題につなぐ。
消費者トラブルに合わないためにはどうしたらよいのだろうか	
3 消費生活センターがどのようなところなのか知る。	T2◎消費や契約について相談できる機関が市内にあることを伝える。
4 消費生活センターでの実際の相談例 (4件抜粋) を読み、何に気を付ければトラブルを防ぐことができたのか考える。	T1○実際にあった相談事例を児童に配付し、どうすれば防げたのか問いかける。 T2◎相談内容や被害を簡単に補足説明する。
5 トラブルを防ぐためにはどうすればよかったのか、考えた意見をクラスで共有し、売買契約に関する注意点を確認する。 ・よく考えて契約しないといけない。 ・大人に相談してから買い物する。	T2◎発表後、解説や子供たちの考えに対してのフィードバックを行い、児童の考えた注意点が社会とつながっていることを実感させる。
6 学習を振り返る。 ・小学生でも実際に巻き込まれてしまう例があることを知った。 ・困ったときは、消費生活センターというところに相談するのもよいことが分かった。	T1○学習を振り返り、売買契約に関する注意点やこれからの買物の仕方について考えたことをギガタブの発表ノートに記述させる。 T2◎適宜質問に答える。 ◆売買契約に関する注意点を知り、多様な情報から自分で考え、判断しようとすることができる。 (思・判・表) (自己理解・自己管理能力)

2.成果と課題

- ・つけたい力のアイコンを活用することで、振り返りの際についた力を児童が自分で認識できていた。
- ・外部機関と連携し実際の現場で働く方を招いたことで、児童の学びを深めることができた。
- ・学習問題に対する答えを、「まとめ」という形でまとめたり、事例の対応策の共通点を児童と再度おさえたりすると、さらに自己理解・自己管理能力につながったのではないかな。
- ・目標の達成は45分だけでは見取ることができないので、この後の単元構成を大事にしていく。

授業のようす



R6 授業実践②（小学校 6年）

- 1 授業の実際 授業校 千葉市立蘇我小学校
- (1) 題材名 よりよい蘇我の町を実現しよう
- (2) 本時の目標 ・地域の課題やよさを解決したり発展させたりするために、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら、解決に向けて考えようとすることができる。 (思・判・表) (課題対応能力)
- (3) 本時の展開 (42/67 時間)

学習活動	教師の指導 (○) と評価 (◆)
1 前時までのジェフに提案したことを振り返り、手応えや課題などを学級全体で話す。	○前時で提案した内容についての詳細な課題は次活動で確認するので、ここでは提案の手応えや感想を聞くような発問をする。
前回出た課題を改善し、さらによりよい提案内容を考えよう。	
2 前回提案した時に、ジェフの方から指摘していただいた内容を、マトリクス図を用いてまとめる。 ・キッチンカーの内容について、季節を考えて温かいものを出すことはよかったと言ってもらえたね。でも、誰に対してどのような目的でその料理を出すのかが決まっていなかったね。	○前回の提案とジェフの方が話している様子の動画を見返したり、他のグループの進捗状況を見たりできるように、グループごとにテレビ（3台）を設置する。 ○課題に対して、教師が「その課題を解決するためには、どのような力が必要かな。」と投げかけ、教科横断的な視点が必要であることを学級全体で共有する。
3 課題を解決するための方法や手段を、グループ内の役割分担ごとに考えて取り組む。 ・蘇我の町をもっといろいろな人に知ってもらうために、蘇我の町で採れる食材を使うのはどうだろうか。私たちの住んでいる町では、どのような食材をつくっているのだろうか。	○解決するための方法や手段で、サッカースタジアムで調査したりグッズを見たりしたいという考えが出た場合は、後日ジェフの方に連絡して聞くように伝え、他に今できることはないか声をかける。 ◆地域の課題やよさを解決したり発展させたりするために、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら、解決に向けて考えようとすることができる。 (思・判・表) (課題対応能力)
4 グループごとに考えた課題の解決方法や手段を伝え合う。	○グループ内で今日の学習の取組をまとめて発表するように声をかける。
5 課題に対する今日の取組を、学級全体でグループごとに報告し合う。	○各グループ2分程度で報告し、質問やアドバイスがある人は報告が終わった後に行う。
6 本時の学習の振り返りをする。	○「できたこと」「わかったこと」「これから考える必要があること」など、次時の活動につながる振り返りを記入するように声をかける。

2.成果と課題

- ・企業と連携して学習に取り組むことで、課題に対して、より主体的に、友達と話し合うことの大切さを理解しながら学習に取り組むことができた。
- ・課題を解決するために、教科横断的な力が必要であることを、児童自身が理解して学習に取り組むことができた。